

## 令和5年度第2回大阪府立少年自然の家指定管理者評価委員会 議事概要

- 日 時：令和6年2月19日（月） 15：00～16：30
- 場 所：大阪府咲洲庁舎41階 共用会議室⑦
- 委員出席：3名（佐井委員長、有田委員、杉本委員） 欠席：2名（河野委員、蓬田委員）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

- ◆ 令和5年度大阪府立少年自然の家指定管理運営業務の評価について  
事務局より資料4「令和5年度指定管理運営業務評価票」の説明

### <質疑応答>

委 員 長：以前から外国人の利用者を増加させる手立てを聞いていたが、今年度はどうだったか。

指定管理者：コロナ禍前は1月、2月の春節の時期に申し込みがあったが、今年度は外国からの申し込みはほとんど無い状況だった。2件の申し込みがあったものの、双方キャンセルとなっている。

委 員 長：今期に整備したバーベキューガーデンの利用者がなかなか増えなかったことについて、原因分析を行っているとのことだったが、今後の対応はどうか。

指定管理者：施設の学校団体による利用において、日帰り利用する団体が、宿泊の団体利用により炊飯場を確保しにくいことがある。その際に、バーベキューガーデンの利用を促すことで利用率を伸ばすことも検討している。

委 員 長：バーベキューガーデンと宿泊のセットのプランはあるか。

指定管理者：バーベキューガーデンでのイベントから宿泊もできる「お泊まりパック」も実施している。このプランは家族団体の利用が中心となるが、利用者数は伸びている。

委 員 員：コロナ禍で学校団体の宿泊利用が減少したと思うが、コロナ禍が明けて学校団体の宿泊利用は減少したままか。

指定管理者：コロナ禍前は学校団体の宿泊利用が半数よりやや多かったが、コロナ禍以外にも教員の働き方改革といった影響からか日帰り利用の割合が増えている。しかし、学校団体も子どもたちに自然体験が大事だという思いを持っているため、日帰り利用にキャンプファイヤーを組み込むなどのご案内も行っている。

次年度についても、宿泊利用から日帰り利用に変更する学校からの連絡もいただいているところ。

委 員 員：日帰り利用となると、時間も限られた状況になってしまい、ハイキングや野外炊飯をすると時間がすぐなくなってしまう。日帰りでも色々な体験ができるプランが提案できれば学校団体の利用が増えるのではないかと。

指定管理者：各学校団体の要望は丁寧に聞き取っている。ねらいや目的を確認しながら、整理しながら計画に対する助言を行っている。日帰り利用の時間も20時までとなっているので、柔軟な対応ができる。

委 員 員：打合せや下見で現地に行かなくても利用を可能としているのは、コロナ禍の間の措

置を継続しているということか。

指定管理者：以前もある程度は電話やFAXで柔軟に対応していたが、コロナ禍の間に学校もICTの整備が進み、オンライン会議の対応が可能となっていった。その流れで、引き続きオンラインで打合せを行い、下見はタイミングを見て来るということが増えた。

委員：オンラインでの打合せは、教員の働き方改革の観点からも良いと考える。

委員長：20時まで日帰り料金にして活動内容も充実させていくと、宿泊利用も減少していくこととなるが、収益を考えた時にどうか。

指定管理者：収益としては、日帰りより宿泊で利用いただいた方が良く、さらに食堂を利用いただけるとありがたい。しかし、そこは強制するものではないので、こちらとしては子どもたちが自然体験をできる環境を整えていきたい。利用者の使いやすいように使っていただきたい。

委員：利用者数がコロナ禍前に戻らないのはある程度仕方がない中、新しい柱を作ろうとしていることは評価できる。このシャワークライミングやツリーイングというものが人気なのか。

指定管理者：その2つは主に自主事業の中で行っているものになるが、野外で体を動かす活動は人気がある。シャワークライミングは登山や沢登りを行い、子どもにとっては冒険のような活動を行う。ツリーイングは専用の器具を着用し木を登っていく活動で、当施設でしかなかなか体験できないことを実施していった結果、口コミでも広がっている。ボーイスカウト等からはツリーイングの活動を指定して利用されることもある。

委員：その収益は、部門別損益の収入の中でどの項目に含まれているか。

指定管理者：事業の中で行うものは「事業収入他」に含まれている。団体利用におけるプログラムの内容であれば「自主事業収入（活動系事業収入）」に含まれている。

委員：将来的に子ども的人数が減少していき、団体利用も減少する部分をそこで補うために頑張っているといった狙いもあるか。

指定管理者：野外体験のニーズが高まっている中で、収入の1つの柱として成り立つものと考えている。

委員：そうならば良いと考える。また、投資したバーベキュー関係についても、今年は残念だが今後伸びてほしい。知らない方も多いのではないか。

指定管理者：バーベキューガーデンの知名度については、SNSの有料広告も活用しているが、バーベキュー単体でのPRは難しいと感じている。バーベキューに何か加えたものの提案が必要と考えている。

委員：広告も金額によっては掲載を上部にしてもらえるようだ。そのようなことも含めて検討してほしい。

指定管理者：広告の掲載については、現在検討を進めている。

委員：「自然の家オープンデー」について、貝塚市のイベントと一緒にできなかったとのことだがなぜか。

指定管理者：過去は、貝塚市のウォーキングイベントに合わせて開催していたが、コロナ禍以降は貝塚市が開催を見合わせており、今回は単独で開催した。その結果、貝塚市による広報が利用できず参加者が伸び悩んだ。しかし、最近になり3月の開催の連絡があったのでそちらには協力する予定をしている。

委員：貝塚市以外の近隣自治体と連携してイベントを開催することはできないか。

指定管理者：自治体からの話があれば積極的に検討していきたい。

委員：繁忙期に合わせての期間限定での職員増員を行ったとのことで柔軟な対応で良いと思うが、人員確保については問題なくできているか。

指定管理者：地元の方を中心に来ていただいている。

委員長：「安定的な運営が可能となる財政的基盤」の評価項目で、収益状況を見ると厳しい状況で、特に光熱費の占める割合が高い。指定管理者ではなく、大阪府の対応になるかもしれないが、環境への配慮も含めて、例えば太陽光パネルを設置するなどの対策が必要ではないか。

事務局：大阪府としては、交付金を活用し照明のLED化を進め、9割以上の照明をLED化する対応を行った。

委員長：電気代に関しては、次年度は今年度より減少するという見込みか。

事務局：そのように見込んでいる。

委員長：昨年度はキャンプブームもあり「女性のためのソロキャンプ」が好評だったが、キャンプブームは継続しているか。

指定管理者：「女性のためのソロキャンプ」はリピートと新規で半分ずつ程度の参加をいただけた。ファミリーキャンプも開催をしている。キャンプブームで好きになってくれた方のリピートがある状況。

委員長：学校教職員の働き方改革に関わって、今後小中学校における宿泊行事は減少していく可能性は否定できないか。

委員：否定できない。

委員長：教職員の負担を軽減して、小中学生がこういった施設で宿泊してほしい。非常に良い経験になる。

指定管理者：学校団体の利用において、グループ活動等のプログラムを施設側に任せいただくこともできる。キャンプファイヤーにおいて任せいただくこともある。

委員：学校も行事の目的によって、宿泊を行うかどうか検討している。子どもが主体的に活動できるようなプログラムも提案いただけると、教職員も魅力を感じるのではないか。

委員長：学校団体が利用しないと、なかなか宿泊の利用者数は増えないと思う。教職員の負担を軽減するような方法を検討してほしい。

委員：例えば打合せの際に、他の学校の負担軽減の取組を紹介したりしていただけるとありがたい。

委員長：他に意見がなければ、これまで出た意見をまとめることでよろしいか。

委員：異議なし。